

JP6054048

Publication Title:

MULTI-FUNCTION TELEPHONE SET

Abstract:

Abstract of JP6054048

PURPOSE:To record information set by a caller to an automatic message recording storage area in a voice signal by synthesizing a destination number by the entry of a caller and a speech time or the like into a voice signal and recording the voice signal to an automatic message recording section. **CONSTITUTION:**A control section 20 detects off-hook of a caller to start a time count section 6 and stores an entered destination telephone number to a telephone number recognition section 7. When the talking is finished, the control section 20 allows a voice utterance device 5 to convert a talking time into a voice signal and it is stored in a recorder 8 and starts a telephone number recognition section 7 to read a stored destination telephone number, converts the telephone number into a voice signal and it is recorded in the recorder 8. After information relating to plural callers is recorded in the recorder 8, when a read command of the recorded content is given from a key entry section 4 on the necessity of the user, the control section 20 rewinds the recording tape of the recorder 8 up to the initial state and allows the recorder 8 to sound the recording content from the initial state in voice.

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

Courtesy of <http://v3.espacenet.com>

特開平6-54048

(43) 公開日 平成6年(1994)2月25日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 M 1/65	J	7190-5K		
1/00	R	7117-5K		
15/04		7190-5K		

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平4-206510
 (22) 出願日 平成4年(1992)8月3日

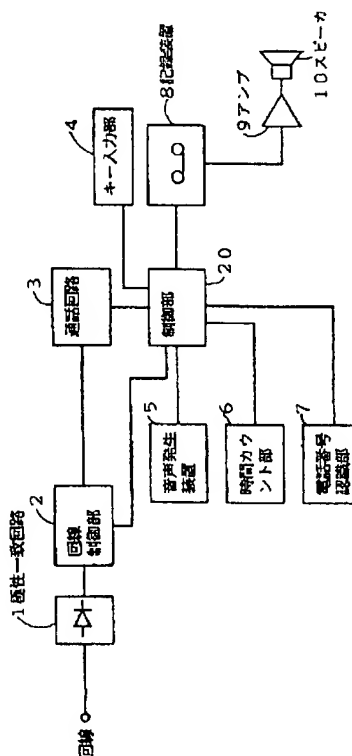
(71) 出願人 000112565
 フォスター電機株式会社
 東京都昭島市宮沢町512番地
 (72) 発明者 坂本 雄一
 東京都昭島市宮沢町512番地 フォスター
 電機株式会社内
 (74) 代理人 弁理士 井島 藤治 (外1名)

(54) 【発明の名称】 多機能電話機

(57) 【要約】

【目的】 本発明は発呼者の操作によるデータを留守録音記録領域に音声で記録するようにした多機能電話機に関し、発呼者側の設定した情報を音声で留守録音記録領域に記録させることができる多機能電話機を提供することを目的としている。

【構成】 留守録音機能のついた電話機において、発呼者の操作による宛先番号、通話時間等を音声合成して留守録音部に音声で記録するように構成する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 留守録音機能のついた電話機において、発呼者の操作による宛先番号、通話時間等を音声合成して留守録音部に音声で記録するようにしたことを特徴とする多機能電話機。

【請求項 2】 前記留守録音機能部の記録領域を、留守録音記録領域と、発呼者の設定した操作内容を記録する領域に分割するようにしたことを特徴とする請求項 1 記載の多機能電話機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は発呼者の操作によるデータを留守録音記録領域に音声で記録するようにした多機能電話機に関する。

【0002】

【従来の技術】 近年、留守録音機能のついた電話機が普及してきている。この種の電話機では、その機能も多様化してきており、通話料金、通話時間等を電話機に付属の表示部に表示したり、プリンタに出力するようになったものも開発されてきている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 現状の留守録音電話機では、音声合成で前記情報を発生するのはあるが、1 回毎の内容を発声するだけであり、後で集計したり聞きなおしたりすることができない。また、プリンタ等のインタフェースを付加することはコスト的に問題がある。

【0004】 本発明はこのような課題に鑑みてなされたものであって、発呼者側の設定した情報を音声で留守録音記録領域に記録させることができる多機能電話機を提供することを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】 前記した課題を解決する本発明は、留守録音機能のついた電話機において、発呼者の操作による宛先番号、通話時間等を音声合成して留守録音部に音声で記録するようにしたことを特徴としている。

【0006】

【作用】 発呼者側の設定した操作内容を音声で留守録音記録部に記録しておくようにする。このような構成とすることにより、後で設定した操作内容を繰り返し聞くことができ、後でそれらの内容を集計したりする時に都合がよい。

【0007】

【実施例】 以下、図面を参照して本発明の実施例を詳細に説明する。図 1 は本発明の一実施例を示す構成ブロック図である。図において、1 は回線と接続される極性一致回路である。該極性一致回路 1 としては例えばダイオードブリッジが用いられ、回線の接続極性に拘らず、動作可能なようにしている。2 は回線の制御を行う回線制御部、3 は通話回路である。

【0008】 4 はテンキー乃至はファンクションキー等からなるキー入力部である。5 は音声を合成して発声する音声発声装置、6 は通話時間をカウントする時間カウンタ部、7 は発呼者がキー入力部 4 より入力した宛先電話番号を記録する電話番号認識部である。8 は音声を記録する記録装置である。該記録装置 8 としては、例えばカセットレコーダが用いられる。9 は該音声記録装置 8 の出力を増幅するアンプ、10 は該アンプ 9 により駆動されるスピーカである。20 は全体の動作の制御を行う制御部である。該制御部 20 としては、例えば CPU が用いられる。このように構成された回路の動作を説明すれば、以下のとおりである。

（留守録音動作） 回線から着信すると、その着信信号は回線制御部 2、通話回路 3 を経て制御部 20 に通知される。制御部 20 は、留守録音設定がなされている時には、音声発声装置 5 を起動して、例えば「ただいま、留守にしております。ピーという音の後に用件をお話ください。」というメッセージを発呼者に回線を通じて通知する。このメッセージに対して発呼者が応答すると、その応答した音声の内容は制御部 20 を介して記録装置 8 に記録される。

【0009】 利用者は、後でその録音された内容をスピーカ 10 から聞くことができる。つまり、キー入力部 4 からコマンドを入力し、録音された記録内容をスピーカ 10 から流すようにする。制御部 20 は、このコマンドを受けると、記録装置 8 の内容を読出し、アンプ 9 で増幅した後、スピーカ 10 から記録されていた内容を発声させる。なお、着信時の動作については本発明と直接関係ないため、詳細な説明については省略してある。

（発呼者側操作内容の動作） 発呼者が電話機をオフフックすると、制御部 20 はそのオフフックを検出して、時間カウンタ部 6 を起動する。時間カウンタ部 6 は、通話時間のカウンタを開始する。次に、キー入力部 4 から相手先電話番号を入力すると、その電話番号は制御部 20 を介して電話番号認識部 7 に記憶される。

【0010】 発呼者は、相手先と通話を行う。通話が終了すると、制御部 20 は時間カウンタ部 6 を起動し、通話に要した時間を求める。次に、この時間を音声発声装置 5 を起動して音声になおし、記録装置 8 に記録させる。次に、制御部 20 は電話番号認識部 7 を起動し、記憶されている相手方電話番号を読出す。次に、この読出した電話番号を音声発声装置 5 を起動して音声になおし、記録装置 8 に記録させる。このようにして、発呼者の設定した操作に関する情報が記録装置 8 に音声で記録される。

【0011】 記録装置 8 に複数の発呼者に関する情報が記録された後、利用者は必要に応じて、この記録装置 8 に記録された内容を読出すことができる。つまり、キー入力部 4 から記録内容の読出しコマンドを与えると、制御部 20 は記録装置 8 を最初の状態に巻き戻し、初めの

3

状態から記録内容を音声で発声させる。ユーザは、その内容を聞き、通話時間、相手先番号等を聞きなおしたり、集計することができる。

【0012】なお、記録装置8を留守録音記録機能としても用いているため、再生時に留守録音の内容と発呼者の設定した操作内容データとが混ざって聞こえ、混乱を生じる場合もある。このような不具合を除去するためには、記録装置の記憶領域を留守録音記録用領域と、発呼者の設定した操作内容記録用領域に分割し、それぞれの領域にそれぞれの内容を記録するようにすることができる。或いは、記録装置8を留守録音記録用と発呼者の設定した操作内容記録用の2個設けるようにすることもできる。

【0013】上述の説明では、時間カウント部6のカウント開始時間を、電話機をオフフックした時にとった。しかしながら、本発明はこれに限るものではなく、宛先との間にパスが設定された時の応答を受けてからカウントを開始するようにすることもできる。この場合、より正確な通話時間のカウントが可能となる。また、このカウント時間にある係数をかけることにより、課金情報を記録するようにすることもできる。

【0014】

【発明の効果】以上、詳細に説明したように、本発明によれば以下のような効果が得られる。

①通話管理が容易になる。特にコードレス留守録音のように、子機が多数ある場合、子機番号等も録音しておく

4

ようにすれば、どの装置からどこへどのくらいの時間通話したかがわかる。

②従来のマイクロカセットテープには、応答メッセージ、伝言、通話メモ用件メッセージ等が記録されるが、これらは一般的には使用者頻度が極めて低いケースが多く、本発明にかかる発呼者の設定した操作内容の記録に用いても支障はない。

【0015】以上、説明したように、本発明によれば発呼者側の設定した情報を音声で留守録音記録領域に記録させることができる多機能電話機を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す構成ブロック図である。

【符号の説明】

- 1 極性一致回路
- 2 回線制御部
- 3 通話回路
- 4 キー入力部
- 5 音声発生装置
- 6 時間カウント部
- 7 電話番号認識部
- 8 記録装置
- 9 アンプ
- 10 スピーカ
- 20 制御部

【図1】

